

# 水土里レポート

投稿月日	
タイトル	「田んぼの学校」那須苗取り田植唄保存会による～御田植え祭～
水土里レポーター名	水土里ネット那須野ヶ原 参事 星野 恵美子

平成29年度5月21日（日）、30℃を超える真夏日の中、「田んぼの学校」において～御田植え祭～が、会員指導者や自治会、会員親子等、約130名参加により盛大に執り行われました。例年通り、関係各位・来賓を迎えて神事を行い、その後、昔から伝わる「田植唄」に合わせ田植えを実施しました。

参加者は、かすりの着物に『たすき』をかけもんぺに手ぬぐい、子ども達もかすりの着物を着て裸足で田んぼに入りました。初めて参加する子は、田んぼの中で足を取られる様に驚き、怖がる子もいました。慣れた子は、田んぼの水温に驚き、「温かい！」と、どんどん田んぼへ入って行きました。この日の温度は30℃を超える猛暑日だったので、カエルが茹でられてしまいそうな暑さ。そんな中、子供達は必死に苗を植えました。途中呆れてカエルを追いかけて行ってしまう子や、足洗用の桶で水遊びに夢中になる子もいましたが、熱中症等の体調不良者も無く、無事に田植えを終えました。

今年の田植えは、海外からの参加者もいました。会長が、たまたま別なところでお知り合いになり、この活動の事を話したところ、是非、参加したいとのことで飛び入りの参加でした。作業後には、かすりの着物などを着せていただき初めての『たすき』に興味津々でした。他にも、偶然通りかかった外国人の方も、田植えの衣装を着用し、『古来の日本の田植え』の雰囲気を楽しんでいました。

このような、世代間交流、更には国際交流等、今の子ども達の育成には必要不可欠です。私たちは、時代がどのように変化したとしても、人と人の繋がりが失われることのないよう、伝統文化や伝統行事の継承活動の支援を、今後も行って参ります。



神事終了後、全員で田植唄を合唱。

オーストラリアより、来日。田植えの衣装を着用し大満足！



四月二十三日に種まきを行った苗

横一列になり苗を植え、後退して行きます。

